



# CITY WATCHING

## クローズアップ CLOSE UP

### まちなか駅前で楽しむ

5月26日と27日、中央イベント広場で「まえばし活きた食とビールの屋台村2018」を開催。また、27日にはJR前橋駅前などで「まえきフェス」と「けやき並木フェス」を開催しました。盛りだくさんのイベントで、まちなか駅前がにぎわいました。なお、屋台村は8月まで毎月開催予定です。



### 口のケアを楽しく学ぶ

歯と口の健康フェアを6月3日に前橋プラザ元気21で開催。歯磨きの実践指導や口内細菌の観察など、歯と口のことを楽しく学べるブースが多く出展。年代によって変わる口腔ケアを知る講座もあり、訪れたさまざまな年代の人が歯と口の健康を考えました。



### 赤城山、朱色に染まる

「赤城山新緑&つつじWEEK」を開催中の赤城山では、今年もつつじが鮮やかに開花。初日はたくさんの方が訪れ、撮影やハイキング、景色を眺めながら会話を楽しみました。イベントは6月24日(日)まで開催。新緑とつつじの共演を初夏の赤城山で楽しみませんか。

## いきいき まえばし人

テニスの全国大会で優勝  
齋藤 咲良さん・11歳  
二子宮小

### 将来は世界で活躍する選手に



5月に開催された全国選抜ジュニアテニス選手権兼ワールドジュニアテニス世界大会代表選考会の12歳以下女子シングルで優勝した。「テニスをやってきて一番うれしかったです。試合では緊張することが多いですが、決勝戦は自分でゲームを組み立てられたので楽しかったですね」

テニスを始めたのは4歳の頃。父の勧めがきっかけだ。他に水泳や体操にも取り組んだが、小3からは好成績を収めるようになったテニスに絞った。卓越した成績を収められる理由の一つが高い身体能力。日本プロテニス協会が行う体力審査の全国大会では4年連続で最優秀選手になった。「将来の夢はプロテニスプレーヤー。ジョコビッチみたいに守り、プリスコバみたい

最近、児童画の専門家と話す機会がありました。話したのは、子どもの頃に絵を褒められて美術が好きになったという話をよく聞くが、褒められた理由は何だったかということ。大概の大人は模写が上手いなどの技術的な評価をするため、実はあまり独創的な絵を褒めていない、と専門家は言っていました。



## 創造の森から アーツ前橋 館長日記 Vol.2



〒アーツ前橋  
☎027-230-1144

アーツ前橋の住友文彦館長が日々のあれこれをつづるこのコーナー。第2回は子どもの美術についてです。

「私はずっと心配しています。そこで、アーツ前橋では学校にユニークな発想を持った芸術家を派遣し、子どもと一緒に創作活動をしています。昨年は3人の芸術家が市内の学校を訪れました。今年も3人の派遣を予定。ぜひ楽しみにしてください。実は絵を描いたり、ものをつくったりすると、物理や社会やいろいろなものに関心が向きます。自分の感性を大きく膨らませる貴重な機会を子どもたちに経験することは、将来大きな意味を持つはずです。前橋は子どもの創作体験を大事にするまちであってほしいです。」

確かに、模写は評価基準が明確です。子どもが自分の感覚に従って素直に描けば、みんな見事に違う絵になるでしょう。それを褒めれば、自分の感覚を形にすることに夢中になるはずですが、残念ながらそうという。人工知能に仕事が奪われる時代にこそ必要なのはこれ！



生徒と芸術家と一緒に創作活動して作製